

1. 評価結果概要表

作成日 2008年3月17日

【評価実施概要】

事業所番号	1270400730
法人名	延寿グループ株式会社
事業所名	アット・ホームケア若松
所在地	〒264-0021 千葉県千葉市若葉区若松町529 (電話) 043-420-0201

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年3月13日	評価確定日	4月25日

【情報提供票より】(20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	14 人	常勤 3人, 非常勤11人, 常勤換算5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	5畳12,500円 ~ 9畳55,000円	その他	食費43,500, 水道光熱費20,000, 理美容代, おむつ代, 医療費など	
敷金	無	有りの場合	有(期間:2年)24ヶ月で均等償却	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	償却の有無		
食材料費	朝食	450 円	昼食	450 円
	夕食	550 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福元クリニック 堀田医院 聖光会病院 千葉中央メディカルセンター
---------	----------------------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家改修型グループホームで、広い庭に植えられた樹木や草花が季節を感じさせる。近隣住民や地域との交流も盛んで、地域と共に生活していくホームの姿勢が伺える。古い木造家屋を改修したホームなのでバリアフリーではないが、職員の質の高いケアが入居者の自立した生活を可能にしている。職員の「生活を楽しむ、ケアを楽しむ、今を楽しむ」という発言からも入居者と共に創り上げてきたアットホームな雰囲気を感じられる。同法人は県内に4つのグループホームを運営し、研修として相互に人材を交流しながら職員が自ら気づく機会を提供し、人材の育成と組織の活性化、ケアの透明性などを図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では特に改善点はなかったが、お風呂場の改修とホーム後継者(リーダークラス)の育成がコメントとして上げられていた。お風呂場の改修は、前回の外部評価直後に改修し、すのこによる高さの調整も確認できた。ホーム後継者(リーダークラス)の育成も役割や責任を分担しながら、リーダーとしての自覚を促しながら進められている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、職員に意見を聞きながら自己評価に取り組んでいる。今後は、これを人材育成の機会と捉えて、各項目の意味の理解やホームの課題を客観的に把握するプロセスとして、職員が自己評価に参加することが期待される。これによる職員の客観的な視点がケアの質の向上に繋がると思われる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は6ヶ月に1回行なわれている。主な内容はホームの状況、防災訓練、身体拘束、外部評価の意義や結果などの説明や報告で、参加者からの意見をホームの運営に活かしている。年2回と開催頻度は少ないが、自治会役員、民生委員、包括支援センター職員、地域住民、入居者、家族など参加者は多く、開催前に資料を直接手渡すなどの配慮で効果的な会議を開催している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族からの意見や要望が出やすいようなホームの雰囲気づくりに配慮している。家族アンケートからもその姿勢が実際に家族に伝わっていることが伺える。電話等でも意見や要望を聞くようにしているが、やはり顔を見て話を直接することで意思疎通が図れるので、家族の訪問時を大切な機会と捉えている。意見や要望があれば職員同士で話し合い、改善に取り組んでいる。その取り組みについてはその都度家族に報告している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	買い物や散歩時には挨拶をし、ホームで作った野菜などは近所に配り親交を深めている。アットホームケア通信を近所に配ることで、ホームに対する理解を得る努力もしている。自治会役員等の他、近所の教会や交番とも交流がある。入居者の徘徊やホームの防災時連携も含めて地域と良好な関係を構築している。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念があり、職員にも浸透している。今後は地域密着型としての理念を職員で考えたいとのことなので、楽しみである。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の生活の中で理念を共有し、理念に基づくケアが実践できるように管理者と職員は常にコミュニケーションを取っている。これにより、職員は技術だけではなく心でケアすることを意識し、入居者との生活を楽しんでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会役員等の他、近所の教会や交番とも交流がある。入居者の徘徊やホームの防災時連携も含めて地域と良好な関係を構築している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果は常に誰でも閲覧できるように玄関に掲示してある。また、評価の意義や改善項目は運営推進会議をはじめとして各会議で報告、職員から意見を求めることで全員参加型の運営を心がけている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況、防災訓練、身体拘束、外部評価の意義や結果などの説明や報告を行い、参加者からの意見をホームの運営に活かしている。会議内容や予定が決まり次第、可能な限り、参加者に直接資料を手渡しすることで、参加率を高め、効率的で効果的な会議の運営を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の利用方法や利用者の状況などを含めて、市担当者に相談する機会を持つことで、それ以外のことも情報交換できる関係になっている。また、グループホーム連絡会に市担当者を招き、グループホームの状況を話し合う機会を設けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的には、月1回アットホームケア通信若松(便り)を郵送している。健康状態、ホームの状況、入居者の様子などを掲載している。個々に対応すべき内容については家族の訪問時や電話、郵送等で個人情報に配慮して適切に行われている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問しやすいような雰囲気づくりや、アットホームケア通信などで定期的に訪問を呼びかけている。その都度、電話等でも意見や要望を聞くようにしているが、やはり顔を見て話を直接することで意思疎通できるので、家族の訪問時を大切な機会と捉えている。意見や要望があれば職員で話し合い、改善に取り組んでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職および異動は少ないが、異動等がある場合は事前に入居者の精神的なダメージに配慮した方法をとるようにしている。職員の採用時から長期に勤めてもらえることを前提にお互いを理解納得して、安定した職員配置(雇用)を進めるように心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時のオリエンテーションや定期的な人事考課などにより法人内研修を行い、外部研修についても機会を提供している。職員は法人が運営する他のグループホームで研修する事ができる。人材交流、ケアの透明性、組織活性化の面では優れている取り組みであるが、個々のレベルに合わせた計画的な研修の実施というまでには至っていない。		人事考課を活用し、管理者と職員が納得した上で、一人ひとりのレベルに合わせた計画的な研修が受けられる体制作りが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にある他のグループホームとの交流を深めている。今後もグループホームの見学会やケース勉強会などを開催したいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前にはホームを見学し、ホームの雰囲気に慣れるとともに、職員との交流を図るようにしている。体験入居も1週間程度可能で、本人と家族が納得し安心できる配慮をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>教え教えられの関係で、職員は入居者を人生の先輩として尊敬し、生活の中で起る様々な出来事を楽しむ気持ちを入居者と共有している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者と職員には信頼関係があり、会話や入居者の振る舞いの中から、常に入居者の意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者本位のケアを目指して職員間で活発な話し合いはされているが、個別介護計画に具体的に反映されていない。</p>		<p>話し合いの結果を課題や目標に落とし込み、尚一層の入居者本位の介護計画の作成が期待される。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に一度介護計画の見直しが行われ、更に日々のケアの中で変化の見られるときは、その都度見直しが行われている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営推進会議の席上で認知症の相談に応じたり、地域の相談にも応じている。近隣の高齢者を招いて、「お茶会」を開いている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の要望に応じて、希望に沿った医療が受けられるよう支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期に向けた対応を話し合い、方針を一緒に考えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
は					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーが守られるよう、職員の言動には日ごろから十分な配慮がなされ、新人職員には特にきめ細かな指導がなされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、美容室やデパートへの同行、畑仕事や花の手入れ等、一人ひとりの希望の実現に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望が献立に生かされ、調理、盛り付け、片付け等も職員と共に楽しみながら行う様子が伺えた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	場合によって個人の希望に応じた入浴支援も行われているが、原則として、入浴日は週2回と決められている。		制約の多い中で入浴回数を増すことが大変な事は十分察せられるが、入居者の楽しみの機会を増す観点から、今後の課題として取り組まれる事が期待される。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、花や野菜作り等に入居者の能力が生かされている。又、地域行事にも入居者と話し合いながら、積極的に参加している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域に公園も点在し、散歩コースは豊富で、天気の良い日は外に出るようにしている。また、買物にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は常に開放している。徘徊する入居者の対応については、職員全員で話し合いのうえ、見守りに徹している。抑制しない事により、徘徊行動に改善がみられる様子である。地域の交番との連携も取っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に備えて、日ごろから独自の訓練がなされ、地域の火災訓練への参加も予定している。近隣との良い関係が保たれている中で、防災への協力関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に食事内容や摂取量の記録をつけ、把握に努めている。月1回管理栄養士に献立や、摂取量、体重などのチェックを依頼している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は家庭的雰囲気があり、居間兼用の台所には入居者のくつろいだ姿がみられた。玄関に入居者の生けた花を飾る等、日々の生活の中で季節感を感じ、居心地の良い住まいになるよう工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望に合わせて馴染みの物、好みの物が居室に配置されている。		